

第2学年 特別の教科 道徳 学習指導案

第2学年1組

1 主題名 はたらくことのよさ C 勤労、公共の精神

2 教材名 「おでこのあせ」 (出典：光村図書「どうとく」)

3 本時

(1) ねらい

しかたなく参加した町のごみ拾いに、徐々にやりがいを感じて働く「あつし」の姿などを通して、働くことのよさを考えさせ、みんなのために働こうとする心情を育てる。

(2) 展開

	主な学習活動 ○発問 ・予想される児童の反応	○指導上の留意点 ☆評価
導入	(1) ふだんの生活の中での仕事を話し合う。 ○家や学校で、どんな仕事をしていますか。 ・学校では、配達係をしています。 ・家では、洗濯ものを畳んでいます。	○実生活から想起させることで、主題をより自分事として捉えられるようにする。
	考えよう：はたらくことの よさ	
展開 前段	(2) 「おでこのあせ」を読んで話し合う。 ①ぐずぐずしているあつしは、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・ごみ拾いなんか面倒くさいな。 ②お父さんのごみ拾いの様子を見つめながら、あつしは、どんなことを考えていたでしょう。 ・お父さん、頑張っていてすごいな。 ・ぼくもやってみようかな。 ③「ようし、学校までもう少しだ。がんばろう。」と言ったあつしはどんな思いだったでしょう。 ・学校まで全部きれいにするぞ。	○ごみ拾いに対する面倒な気持ちを考えさせる。 ○後ろ向きな言葉も受け入れる雰囲気を作る。 ○①から②、②から③への、「あつし」の働く意欲の高まりを捉えさせ、その変化の理由を考えさせる。
展開 後段	④あつしの心は、どうして変わってきたのでしょうか。 ・他の人の姿を見て「頑張らなくちゃ。」と思ったから。 ・おばさんに感謝されたいから。 ・きれいになったことがうれしかったから。 ⑤はたらくことのよさとは、何でしょう。 ・みんなの役に立てること。 ・自分が「やった！」と思えること。	○④で考えたことを基に、働くことのよさを児童自身の言葉でまとめさせる。 ○働くことのよさは、一つでないことに気付かせるために対話的に活動を進める。 ☆登場人物や友達の考えを基に、一生懸命働くとどんな気持ちになるかについての考えを広げている。
終末	(3) はたらくことのよさを保護者にインタビューする。 ・「○○さんにとって、はたらくことのよさとは何ですか。」	○実際にはたらいっている保護者の生の声を聞くことで、はたらくことのよさへの理解を深める。